

科目名	単位	時間数	講義時期	講師 (○=実務経験者)
臨床薬理学	1	30	1年前期	山崎晃憲 (○)
科目のねらい 薬の効きかたと理論的背景を理解し、それに基づく適切な薬物療法を学ぶ 薬理学全般における基礎的知識と、疾患の系統別に作用する薬物について学ぶ 薬物医療事故の事例から看護師の役割を学び深める				
教科書 : 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進 3 薬理学第 15 版 医学書院 参考文献 : 都度紹介				
評価方法 : 筆記試験 100% 評価認定 : 優(80点以上)、良(70~79点)、可(60~69点)、不可(60点未満)の4段階評価とする				
授業の進め方 総論では、薬剤師の役割と業務内容やチーム医療における薬剤師の役割について解説する。 また、医薬品を取り扱う上で必要となる法律の概要を解説し、コンプライアンスの重要性を説明する。 各論では、患者に薬が届けられるまでのプロセスから薬物療法の施行過程を解説、その中で看護師として医薬品を取り扱う際に必要な知識を解説する。各項目に生理学、病態、生理学、薬理学、微生物学、栄養学などの関連分野と組み合わせながら臨床に即した授業を進める。				

授業進度と内容

回数	単元	時間	学習内容	授業形態
1	薬理学総論	2	1. 薬物治療と看護 2. 薬理学とは何か 3. チーム医療における薬物療法と看護師の役割	講義
2	薬理学の基礎知識	2	1. 薬が作用するしくみ(薬力学) 2. 薬の体内動態(薬物動態学) 3. 薬物相互作用 4. 薬物の個人差に影響する因子 5. 薬物使用の有益性と危険性 6. 薬と法律	講義
3	抗感染症薬	2	1. 感染症治療に関する基礎事項 2. 抗菌薬 3. 抗真菌薬・抗ウイルス薬 4. 感染症治療における問題点	講義
4	抗がん薬	2	1. がん治療に関する基礎事項 2. 抗がん薬の種類	講義
5	免疫治療薬	2	1. 免疫系の基礎知識 2. 免疫抑制剤 3. 免疫増強薬・予防接種薬	講義

回数	単元	時間	学習内容	授業形態
6	抗アレルギー薬・ 抗炎症薬	2	1. 抗ヒスタミン薬と抗アレルギー薬 2. 抗炎症薬 3. 抗リウマチ薬	講義
7	末梢での神経活動に 作用する薬物	2	1. 神経系による情報伝達と薬物 2. 交感神経作用薬 3. 副交感神経作用薬 4. 筋弛緩薬・局所麻酔薬	講義
8 9	中枢神経系に作用する 薬物	4	1. 中枢神経系のはたらきと薬物 2. 全身麻酔薬 3. 催眠薬・抗不安薬 4. 抗精神病薬 5. 抗うつ薬・気分安定薬 6. パーキンソン症候群治療薬 7. 抗てんかん薬 8. 麻薬性鎮痛剤 9. 片頭痛治療薬	講義
10 11	循環器系に作用する 薬物	4	1. 降圧薬 2. 狭心症治療薬 3. 心不全治療薬 4. 抗不整脈薬 5. 利尿剤 6. 脂質異常症治療薬 7. 血液凝固系・線溶系に作用する薬物 8. 血液に作用する薬物	講義
12 13	呼吸器・消化器・生殖器 泌尿器系に作用する薬 物	4	1. 呼吸器系に作用する薬物 2. 消化器系に作用する薬物 3. 生殖器系・泌尿器系に作用する薬物	講義
14	物質代謝に作用する 薬物	2	1. ホルモンとホルモン拮抗薬 2. 治療薬としてのビタミン	講義
15	皮膚科用薬・点眼薬 救急の際に使用される 薬物 漢方薬	2	1. 皮膚に使用する薬物 2. 眼科用薬 3. 救急に用いられる薬物 4. 急性中毒に対する薬物 5. 漢方医学の基礎知識・各論 6. 消毒薬	講義
単位修得試験		1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師 (○=実務経験者)
病態と治療 I	1	30	1年前期	後山恒範(○)中嶋俊雄(○)賀来亨(○)
科目のねらい 疾患の病態、治療検査を理解しその疾患のもつ患者の身体のアセスメントに必要な基礎的能力を養う				
教科書 : 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 10 運動器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 3 循環器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 2 呼吸器 医学書院 参考文献 : 都度紹介				
評価方法 : 筆記試験 100%(後山 40% 中嶋 30% 賀来 30%) 評価認定 : 優(80点以上)、良(70~79点)、可(60~69点)、不可(60点未満)の4段階評価とする				
授業の進め方 解剖生理学の確認をしながら、主たる臨床で関わる代表疾患を中心に講義をします				
単元: 運動器系			担当講師: 後山 恒範	
単元: 循環器系			担当講師: 中嶋 俊雄	
単元: 呼吸器系			担当講師: 賀来 亨	

授業進度と内容

回数	単元	時間	学習内容	授業形態
1 2 3 4 5	運動器疾患の病態と 検査治療処置	10	1. 運動器の構造と機能 ・骨、関節、神経と筋肉、腱と靭帯 2. 症状とその病態生理 ・疼痛、形態・関節の異常、神経障害 3. 診断・検査と治療・処置 ・診察・診断の流れ、画像検査、保存療法、理学療法、手術療法、義肢と装具 4. 運動器疾患の理解 ・外傷性・内因性の運動器疾患	講義
6 7 8	循環器疾患の病態と 検査治療処置	10	1. 循環器の構造と機能 ・心臓、血管、自律神経、液性因子 2. 症状とその病態生理 ・胸痛、呼吸困難、浮腫、失神、ショック 3. 検査と治療 ・診察と診断の流れ、心電図、心エコー 心臓カテーテル、血行動態モニタリング	講義

回数	単元	時間	学習内容	授業形態
9 10	循環器疾患の病態と 検査治療処置		心臓核医学検査 ・内科的治療、外科的治療 4. 循環器疾患の理解 ・虚血性心疾患、心不全、不整脈、弁膜症 大動脈系疾患	講義
11 12 13 14 15	呼吸器疾患の病態と 検査治療処置	10	1. 呼吸器の構造と機能 ・呼吸器の構造、呼吸の生理 2. 症状とその病態生理 ・自覚症状（咳嗽、喀痰、呼吸困難） ・他覚症状（チアノーゼ、ばち指、呼吸の異常） 3. 検査と治療・処置 ・診察と診断の流れ、喀痰検査、内視鏡検査、 生検、呼吸機能検査 ・吸入・酸素療法、呼吸理学療法、気道確保 ・胸腔ドレナージ ・在宅酸素療法（HOT） 4. 呼吸器疾患の理解 ・感染症、間質性肺疾患、気道疾患 肺血栓塞栓症、呼吸不全、肺腫瘍	講義
単位修得認定試験		1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師 (○=実務経験者)
臨床検査	1	15	2年前期	植木 幹彦(○)
科目のねらい 医療における臨床検査の役割を知り、各種検査の意義と方法を学ぶ				
教科書 : 系統看護学講座 別巻 臨床検査 医学書院 参考文献 : 都度紹介				
評価方法 : 筆記試験 100% 評価認定 : 優(80点以上)、良(70~79点)、可(60~69点)、不可(60点未満)の4段階評価とする				
授業の進め方 教科書にそってスライド等を使用して講義を進めます				

授業進度と内容

回数	単元	時間	学習内容	授業形態
1	臨床検査の基礎	2	1. 臨床検査とその役割 2. 臨床検査の流れと看護師の役割 3. 臨床検査と多職種連携・協働	講義
2 ~ 8	主な臨床検査	3	1. 一般検査 2. 血液学的検査	講義
		3	1. 生化学検査 2. 免疫・血清学的検査	講義
		3	1. 内分泌学的検査 2. 微生物学的検査 3. 病理検査	講義
		4	1. 生理機能検査 循環機能検査 血圧 標準 12誘導心電図 ホルター心電図 パルスオキシメーター (実際に体験、モデル見学する) 呼吸機能検査 スパイロメトリー他 神経機能検査 脳波検査 他 2. 画像検査 超音波検査 磁気共鳴画像(MRI)検査 サーモグラフィ 3. 内視鏡検査	講義
単位修得認定試験		1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師(○=実務経験者)
治療法概論	1	30	2年前期	蔵前太郎(○) 住田臣造(○)
科目のねらい 外科疾患の病態、治療検査を理解しその疾患患者の身体のアセスメントに必要な基礎的能力を養う				
教科書 : 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 医学書院 参考文献 : 都度紹介				
評価方法 : 筆記試験 100% (蔵前 60% 住田 40%) 評価認定 : 優(80点以上)、良(70~79点)、可(60~69点)、不可(60点未満)の4段階評価とする				
授業の進め方 教科書、スライド(パワーポイント)を併用して進めます				
単元 : 外科患者の病態の基礎 外科的治療の実際 放射線療法			担当講師 : 蔵前太郎	
単元 : 外科的治療支える分野 救急処置の原則 心肺蘇生法			担当講師 : 住田臣造	

授業進度と内容

回数	単元	時間	学習内容	授業形態
1 2 3 4	外科患者の病態の基礎	8	1. 外科的基本手技 ・縫合と抜糸、止血、創傷管理 2. 低侵襲治療 3. 内視鏡治療 4. 外科的治療 ・外科的治療の特徴と手術適応 乳房切除患者 消化器及び腹部疾患 5. 臓器移植の基礎知識	講義 スライド
5 6 7 8 9	外科的治療を支える分野	10	1. 麻酔法 ・麻酔とは ・全身麻酔(吸入麻酔・静脈麻酔) ・局所麻酔(脊髄クモ膜下麻酔・硬膜外麻酔) ・局所麻酔、術前・術中・術後管理 2. 呼吸管理 ・酸素療法、人工呼吸器 3. 体液・栄養管理 ・中心静脈栄養法、経腸栄養法	講義 スライド

回数	単元	時間	学習内容	授業形態
			4. 輸血療法 5. 緩和医療 6. 疼痛緩和 7. 患者の自己決定権とインフォームドコンセント	
10 11 12 13	外科的治療の実際 救急処置法	8	1. 外科的治療の近年の傾向と特徴 2. 手術侵襲と生体の反応 3. 炎症の外科的治療 4. 外科感染症（SSI 予防） 5. 腫瘍の診断と治療 6. 外傷とショック 7. 救急処置法の原則 8. 心肺蘇生法（CPR）	講義 スライド
14 15	放射線療法	4	1. 放射線医学の成り立ちと意義 2. 画像診断 ・ X線、 CT 、 MRI、 超音波、 核医学 3. 放射線治療 ・ 放射線の種類 ・ 正常組織の有害反応、治療可能比 ・ 放射線治療の特徴と目的 4. 放射線防護 ・ 放射線障害、放射線防護	講義 スライド
	単位修得認定試験	1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師(○=実務経験者)
関係法規	1	30	2年前期	水野 晃(○)
科目のねらい 保健医療福祉に関する法規を理解する 看護業務に関連の深い関係法規を学び、看護師の業務や責任について学ぶ				
教科書 : 系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度④ 看護関係法令 医学書院 参考文献 : その都度紹介します				
評価方法 : 筆記試験100% 評価認定 : 優(80点以上)、良(70~79点以上)、可(60~69点以上)、不可(60点未満)の4段階評価とする				
授業の進め方 教科書や配布資料を中心に進めます				

授業進度と内容

回数	単 元	時間	学習内容	授業形態
1	講義の導入	2	授業の進め方、看護師倫理と法律 看護師のガバナンス	講義
2	看護師と法律	2	看護師と法律・裁判、 医療・福祉・社会保障と法律	
3	日本の社会保障制度	2	日本の社会保障制度、保健、年金 セイフティネット	
4	看護師として知っておくべき法律 生活保障関連法規	2	生活保障に関連する法規	
5	看護師として知っておくべき法律 保健衛生関連	2	保健衛生に関連する法律	
6	看護師として知っておくべき法律 保健予防関連	2	保健予防に関連する法律	
7 8	医療従事者関連法律	4	医療従事者に関連する法律	
9 10	看護師に関連する法規	4	保健師助産師看護師法	
11	看護師として知っておくべき法律 労働関係法規	2	労働関係に関する法律	
12	看護師として知っておくべき法律 諸法	2	諸法	

回数	単 元	時間	学習内容	授業形態
13	医療過誤	2	「医療過誤と責任」	講義
14	医療過誤	2	医療過誤・具体的事例の紹介	
15	医療過誤	2	演習 医療過誤の具体例を参考に 「責任」を考える	講義 演習
単位修得認定試験		1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師 (○=実務経験者)
リハビリテーション	1	15	1年後期	橋本 晃広(○)
科目のねらい リハビリテーションの意義と方法について学び、身体や精神の機能回復に向けて援助する際の基礎的知識、技術を身につける				
教科書 : 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院 参考文献 : 都度紹介				
評価方法 : 筆記試験 100% 評価認定 : 優(80点以上)、良(70~79点)、可(60~69点)、不可(60点未満)の4段階評価とする				
授業の進め方 各看護学に活用できる内容として講義をします 介助演習もします				

授業進度と内容

回数	単元	時間	学習内容	授業形態
1	リハビリテーションの定義と概念	2	1. リハビリテーションの定義と理念 2. リハビリテーションの対象と制度	講義
	疾病・障がい・生活機能の分類		1. 障害者の分類と構造 国際疾病分類(ICD) 国際障害分類(ICIDH) 国際生活機能分類(ICF) 客観的障害と主観的障害	
2	リハビリテーションの分類	2	1. 医学的リハビリテーション 2. 教育的リハビリテーション 3. 職業的リハビリテーション 4. 社会的リハビリテーション	講義
	リハビリテーション医療の提供		1. リハビリテーション医療システムとチーム医療 連携職種 他職種連携のあり方	
3	運動器系の障害とリハビリテーション	2	1. 廃用症候群を防ぐには 2. 積極的リハビリテーションプログラム 3. 運動の種類	講義 プレゼンテーション
4	検査手技	2	1. 筋萎縮の比較 2.MMT 3. 筋肉増強の3大条件 4. アンダーソン改定基準 5. 関節可動域 6. ADL評価	講義

回数	単 元	時間	学習内容	授業形態
5	中枢神経系の障害と リハビリテーション	2	1. 中枢神経系麻痺の診方 2. 嚥下・言語障害のリハビリテーション	講義
6	呼吸・循環器系と リハビリテーション	2	1. 虚血性心疾患患者のリハビリテーション 2. 慢性閉塞性肺疾患のリハビリテーション	講義
7	トランスファーの 介助演習	3	1. 車椅子からベット ベットから車椅子 2. 他動的関節可動域運動	演習 (実技)
単位修得認定試験		1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師（○=実務経験者）
共通援助技術	1	30	1年 前期	藤原未央（○） 鎌田たまみ（○）
<p>科目目的 : すべての看護援助に共通し、あらゆる看護技術や看護業務を支えるために必要な知識・技術・態度を身につける</p> <p>科目目標 : 1. 安全・安楽・適切な看護技術を習得する必要性を理解する 2. 看護における観察・記録の目的・意義・方法を理解する 3. 感染防止の意義・対策を理解し、基本的な防止のための技術を習得する 4. 看護における学習支援（健康教育・患者指導の基礎と技法）の知識・技術をする 5. 看護におけるコミュニケーションの基本を理解する 6. 看護・医療における医療安全の目的・意義と事故防止予防を理解する</p>				
<p>教科書 : 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学2 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践2 医療安全 医学書院 ナイチンゲール 看護覚え書(第7版) 現代社 看護の基本となるもの ヴァージニア・ヘンダーソン 日本看護協会出版社 看護技術プラクティス 第4版 学研</p> <p>参考文献 : ナーシング・グラフィック 看護の統合と実践② 医療安全 MCグラフィック出版 医療安全ワークブック 医学書院</p>				
<p>評価方法 : 筆記試験（鎌田 20%、藤原 60%） KYT レポート（鎌田 20%）</p> <p>評価認定 : 優（80点以上）、良（70～79点）、可（60～69点）、不可（60点未満）の4段階評価とする</p>				
<p>授業の進め方 : 1. 事前課題に取り組んでいることを前提とし授業を行います 2. 授業は事前課題→講義→学内実習→振り返り(リフレクション)→事後課題の流れで進めていきます 3. 授業では参考資料も活用しながら学習内容の充実を図ります 4. コミュニケーション能力の向上と視野を広げるために、グループワークを取り入れていきます。積極的に参加しましょう 5. 学内実習は実際の場面を想定して行い、看護を目指すものとしての自覚と責任を持ち、技術の向上を目指して主体的に臨みましょう 6. 看護事故の構造分類に基づいて「してはならないこと」「すべきことを」という2つの事故防止の視点で、事故事例の分析や、危険予知力を高めるために危険訓練を行い安全の重要性と看護事故防止の考え方を理解していきます</p>				
単元 :	安全教育・KYT 学内実習		担当講師 : 鎌田たまみ	
単元 :	技術の概念・感染防止学内実習他		担当講師 : 藤原未央	

授業進度と内容

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1	技術の概念	看護における技術の意義・特徴を理解する 看護技術の原理原則に基づき、根拠を持って実施する重要性を理解する 適切な看護技術の習得に必要な要素を理解する	2	1.看護技術とは 2.看護における技術 3.看護技術を適切に実践するための要素 1) 看護技術の目的 2) 原理原則 3) 安全安楽 4) 実施 5) リフレクション	講義
2	安全教育	事故防止の考え方を理解する	2	1.医療安全を学ぶことの意義 ※DVD「エラーを防ぐコミュニケーション」を視聴する 2.事故防止の考え方 1)医療事故と看護業務 2)看護事故の構造と事故防止の考え方	講義 DVD 視聴
3		看護職の法的規定や医療事故に伴う看護師の法的責任について理解できる	2	1.保助看法による業務範囲 1)医師行為との関係 2.注意義務・法的責任 1)学生としての法的責任 3..ヒヤリ・ハット報告の重要性 DVD「ヒヤリハットとは」を視聴する	講義 DVD 視聴
4 5		看護実践での事故防止が理解できる	4	1.診療の補助業務に伴う事故防止 1)注射業務・内服与薬業務と事故防止 2)経管栄養業務と事故防止 3)輸血業務と事故防止 ※.DVD「与薬を安全に実施するために」を視聴する 2.療養上の世話の事故防止 1)転倒・転落事故防止 2)誤嚥・異食事故防止 3)入浴中の事故防止 ※.DVD「VOL1.事例で学ぶヒヤリハット」を視聴する	講義 グループ ワーク DVD 視聴

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
6 7	KYT	危険予知力を高めることができる	4	1.学内演習 1)実施項目 (1)KYT(危険予知トレーニング) 2)学習方法 (1)KYTの進め方・事例の提示 (2)グループワークで下記について検討 ①危険予測 ②対策立案 3)評価方法・評価の視点 (1)グループのまとめ資料評価 各項目の考え方を理解した記載方法となっている (2)個人レポート評価 自己の傾向を含め感想が述べられている	学内演習 協同学習 グループワーク
8	観察・記録	看護における観察の目的・意義・方法を理解する 看護記録の目的・意義・方法を理解する	2	1. 観察とは 2. 看護における観察 1) 主観的情報と客観的情報 2) フィジカルアセスメント 3) ヘルスアセスメント 3. 看護記録とは 1) 看護記録の法的規定 2) 看護記録の目的・意義 4. 記載・管理における留意点 5. 看護記録の構成 1) 基礎情報 2) 看護計画 3) 経過記録 4) 看護サマリー	講義
9	コミュニケーション技術	患者—看護師、および医療チームメンバー間の関係構築・促進のためのコミュニケーションのあり方を理解する	2	1. 看護・医療におけるコミュニケーションの意義・目的・特徴 1) V.ヘンダーソン：コミュニケーション 2. 効果的なコミュニケーションの実践 1) 傾聴・受容・共感 2) 情報収集の技術 3) アサーティブネス	講義 DVD 視聴 グループワーク

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
				3. DVD 視聴 1) 患者のこころによりそう 4. 自己理解のすすめ 1) プロセスレコード 2) ジョハリの窓	
10 11 12	学習支援技術	看護における学習支援の目的・意義・方法を理解する さまざまな場・健康状態・対象における学習支援の概要・特徴を理解する	6	1. 看護における学習支援とは 1) 学習支援の対象と看護の役割 2) 看護の中にある学習支援 V.ヘンダーソン：学習 3) 学習支援の基礎知識 (1) 学習支援の基本的な考え方 (2) 様々な場における学習支援 4) 学習支援技術 (1) 学習支援の進め方 (2) 学習支援の方法 2. 看護における学習支援の実際 (1) 事例提示（禁煙指導） (2) ロールプレイ発表	講義 グループ ワーク 協同学習
13 14 15	感染防止	感染と感染予防策の概要を理解する 感染防止における看護師の責務と役割を理解する 医療器材の管理・無菌操作の重要性を理解する 感染性廃棄物の処理方法を理解する 医療現場における組織的な予防対策を理解する	4	1. 感染防止の基礎知識 1) 感染成立の条件 2) 院内感染の防止 2. 標準予防策 1) 標準予防策の基礎知識 2) 対策の実際 3. 感染経路別予防策 1) 接触予防策 2) 飛沫予防策 3) 空気予防策 4. 洗浄・消毒・滅菌 5. 無菌操作 1) 保管方法 2) 滅菌物の取り扱い 6. 感染性廃棄物の取り扱い	講義

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
		スタンダードブリーチンに基いた感染防止対策技術を習得する	2	1. 学内実習 1) 実施項目 衛生学的手洗い・滅菌手袋の装着 ガウンテクニック 2) ジグソー学習 (1) 専門家育成 ①ガウンテクニック ②滅菌手袋の装着 (2) チーム練習 看護技術カードに基いた技術練習 2. 技術評価	学内実習
単位修得認定試験			1	筆記試験 レポート	

事前課題内容

単元	事前課題内容
感染防止	1. 「微生物学」で学習した以下の内容を復習する 1)感染成立のしくみ 2)標準予防策の目的と方法 3)感染経路別予防策の目的と内容 2. スタンダードブリーチンに関する基礎知識 (ワークシート) 3. 教科書・看護プラクティスの動画視聴による手順・留意点の確認
学習支援技術	レポート課題 (A4用紙1枚: 講義前に提出) ヘンダーソンの「14. 患者が学習するのを助ける」を読み、ヘンダーソンが「①学習支援の目的、②学習支援の在り方、③看護師の役割・責任についてどのように述べているのか内容を整理する
コミュニケーション技術	レポート課題 (A4用紙1枚: 講義前に提出) ヘンダーソンの「10. 意思の伝達・欲求・気持ちの表現」を読み、「①コミュニケーションの欲求が充足するとはどういうことか、②コミュニケーションの欲求を充足させるために、看護師はどうあるべきである」と述べているか理解した内容を整理する

事後課題

単元	事後課題内容
感染防止	リフレクションシートの記載

科目名	単位	時間数	講義時期	講師(○=実務経験者)
生活援助技術Ⅰ	1	30	1年前期	櫻井美奈子(○) 齊藤まどか(○)
<p>科目目的 : 人間にとっての食事・栄養、排泄の意義を理解し、看護技術に必要な知識・技術・態度を身につける</p> <p>目標 : 1. 食事・栄養、排泄の意義と基礎的な知識・技術・態度について理解する 2. 対象の栄養状態、排泄状態のアセスメントの方法を理解する 3. 食事・栄養、排泄に関わる援助方法を習得する 4. 対象を尊重した態度で援助技術が実践できる</p>				
<p>教科書 : 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院 フォリス・ナインゲール 看護覚え書 現代社 看護の基本となるもの ガーゾニア・ヘンダーソン著 日本看護協会出版会</p> <p>参考文献 : 看護技術プラクティス 第4版 学研</p>				
<p>評価方法 : 筆記試験100% (櫻井40%、小テスト10%) (齊藤40%、小テスト10%)</p> <p>評価認定 : 優(80点以上)、良(70~79点)、可(60~69点)、不可(60点未満)の4段階評価とする</p>				
<p>授業の進め方: 1. 各教科書、学内実習要項、事前に配布された資料は忘れずに毎回準備してください 2. 事前課題で取り組んだ内容をもとに、グループワーク、アセスメントへとつなげていく学習になります。個人で事前課題に取り組み、グループワークでは個々人の相違を見つけるためにも積極的に意見交換をしましょう 3. 食事・栄養、排泄に関する基礎知識を学び、次は実際に食事介助・口腔ケア、排泄援助の演習を行います 4. 学内実習後は援助者として、援助された者として感じたことを十分に振り返って、食事援助技術・排泄援助技術として大切にしたいことのまとめ学習をします</p>				
単元: 食事援助技術			担当講師: 櫻井美奈子	
単元: 排泄援助技術			担当講師: 齊藤まどか	

授業進度と内容

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1	食事援助の基礎知識	人間にとって食事・栄養とは何かを理解する	2	1. 食事・栄養の意義 1) 身体的(生理的)・精神的・社会的な意義 ・グループワークで事前課題をもとに自分たちにとって、食事・栄養の意義を3側面から考える	講義 協同学習 グループワーク

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
				2. 飲食の基本的欲求が充足された状態 1)ヘンダーソンの基本的欲求 2)マズローの欲求の階層でのとらえ 3)「適切に飲食できる」という基本的欲求が充足された状態とは ・「必要な栄養がとれている」「楽しく食べられ満足感がある」が成立する条件を事前課題を活用し考えてみる ※ワークシート「栄養・食事に関するアセスメント」配布	
2		栄養・食事に関するアセスメントの方法を理解する	2	1.食事・栄養摂取のしくみ 2.対象の栄養・食事に関するアセスメント 1)食欲 2)摂食行動 3)摂食嚥下能力 4)栄養状態 5)水分・電解質バランス (1)10分間の小テスト (2)事前に調べ学習をしたアセスメントの視点を用いて、事例の栄養・食事に関する状態を判断する 3.医療施設で提供される食事	講義 グループワーク
3	食事援助の実際	安全で快適な食行動が取れるよう、食事援助の基礎知識を学ぶ	2	1.食事援助の基礎知識 1)食事摂取の介助 2)食欲不振の対象の援助 3)視覚障害のある対象の援助 4)体位・体動制限のある対象の援助 2.口腔ケアの基礎知識 ※看護技術カード「食事介助・口腔ケア」作成	講義 DVD視聴 「食事介助」
4		食事介助・口腔ケアの具体的方法を習得する 対象を尊重した食事援助技術の実践が考えられる	2	1. 学内実習 (実施項目) 「患者の状態に応じた食事介助と口腔ケア」 ファーラー位での食事介助(経口摂取)と口腔ケア(歯みがき・含嗽)の実施 1) ジグソー学習 (1)専門家育成 ①経口摂取の援助 ②口腔ケア (2)専門家代表者によるデモンストレーション	学内実習

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
				(3)他者に食べさせてもらう体験を通して、援助を受ける対象を身体的・精神的側面から考える (4) 教員によるデモンストレーション 2) チーム練習 (1) 看護技術カードに基づいた技術練習	
5 6			4	1.技術評価 2.学内実習後の振り返り・まとめ 1)グループリフレクション 援助者・模擬患者役の学びから、対象への配慮・尊重を保つにはどのように行動したらよいかを話しあう	学内実習 協同学習
7	非経口的 栄養摂取 の援助	経口的に栄養摂取が行いにくい場合の基礎知識を学ぶ 非経口栄養摂取の概略について理解する	2	1.摂食・嚥下障害のある対象への援助 1) 摂食・嚥下訓練援助の基礎知識 2.非経口的栄養摂取方法 1)経管栄養 援助の基礎知識(種類と留意点) 2)中心静脈栄養 援助の基礎知識(種類と留意点)	講義 DVD 視聴 「経管栄養」

事前課題

1. 身体的・精神的・社会的側面から見た食事の意義・必要性を、あなたの体験をもとに、ワークシートに記載してきて下さい。
2. フォーレス・ナイチンゲール 看護覚え書 「六章 食事」「七章 食事の選択」を読み、看護の対象である病人の何を注意深く観察するのか、食べられるよう看護師はどのようなことに創意工夫に努めなければいけないか、理解したことをまとめましょう。
3. ガーゼニア・ハンダーソン 看護の基本となるもの「2.患者の飲食を助ける」を読み、「食べさせてもらうこと」「食べさせること」の中にどのような心理的要因があるのか、理解したことをまとめましょう。以上の2・3を各自まとめ、1のワークシートと共に講義初日に持参して、グループワークに参加してください。

事後課題 リフレクションシート記載

提出期日 学内実習 翌日

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
8 9	自然排尿 および自 然排便の 基礎知識	排泄の意義を理 解する 排泄のメカニズ ムが理解できる 状態に応じた援 助を決定するた めのアセスメントの方 法を理解する	4	1.自然排尿および自然排便の基礎知識 1)排泄の意義(身体・心理・社会的な意味) 2.排泄に影響を及ぼす要因 3.事前課題を持ち寄りグループワーク 基本的欲求が充足した状態 「排泄行動を実行できる能力とはどのよう な条件が必要か」自分自身の排泄行動から 考える 4. 排泄器官の機能と排泄メカニズム 1)排尿 2)排便 5.観察とアセスメント(基本的欲求の未充足状態 正常な排泄を阻害する要因) 1)排尿のアセスメント 2)排便のアセスメント 3)移動動作のアセスメント 4)心理・社会的状態 のアセスメント 6.ワークシート配布	講義 協同学習 グループ ワーク
10	排泄援助 の実際	自然排尿・排便 援助の基礎的知 識を学ぶ 排泄介助の具体 的方法を習得す る	2	1.自然排尿および自然排便援助の基礎知識 1) 10分間の小テスト 2)ポータブルトイレでの排泄援助 3)床上排泄援助 4)おむつを用いた排泄援助 ※看護技術カード「床上排泄」作成	講義 DVD視聴 「排尿・排便 の援助」
11 12		対象の尊厳を保 った援助技術の 実践が考えられ る	4	1. 学内実習 (実施項目) 倦怠感が強い対象の床上排泄 1) ジグソー学習 (1) 専門家育成 ①尿器(男性用・女性用) ②便器(和式・洋式) (2) 専門家代表者によるデモンスト レーション (3) 他者に排泄介助をしてもらう体験 を通して、援助を受ける対象を身体 的・精神的側面から考える (4) 教員によるデモンストレーション 2) チーム練習 (1) 看護技術カードに基づいた技術練習	学内実習

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
13 14			4	1.技術評価 2.学内実習後の振り返り・まとめ (1) グループリフレクション 羞恥心に配慮し安全・安楽・自立・個別性を考慮した排泄援助について、援助者・模擬患者役から学んだことをもとに振り返る	学内実習 協同学習
15	排泄を促す援助	排便を促す援助の基礎知識を学ぶ 導尿についての概要を知る ストーマケアについての概要を知る	2	1. 排便を促す援助の基礎知識 1) 10分間の小テスト 2)便秘のアセスメントと看護ケア 3)浣腸の適応・留意点 4)摘便の適応・留意点 2.導尿 1)一時的導尿の適応・留意点 2)持続的導尿の適応・留意点 3.ストーマケア 1)援助の基礎知識 2)援助の実際	講義 DVD視聴 「浣腸・摘便」 DVD視聴 「導尿・膀胱留置カテーテル」
単位修得認定試験			1	筆記試験	

- 事前課題 1. フローレンス・ナイチンゲール著 看護覚え書きの [I 換気と加温] を読み、看護師として排泄物を取り扱う時の注意点とは何かを考え記述してください。
2. ヴァージニア・ヘンダーソン 「3. 患者の排泄を助ける」を読み、正常な排泄ができる要因を解釈し自分の言葉で文章にまとめ記述してください。
3. 夜間、自宅のベッドに寝ていて、尿意を感じトイレまで行き、排泄を済ませ再びベッドに戻るまでの経過をできるだけ詳細に抽出してください。行動レベルでどのような能力を使用しているのか、どのようなことを考えて行動しているのかをひとつも行動がもれないよう順序だてて記述してください。
- (排泄行動が自立で行われるためには、排泄に必要な動作を不足なく書き出す) 排泄行動を実行できる能力を自分自身の排泄行動から確認します。

講義開始3日前の朝9時までに1~3の内容をA4用紙にまとめ提出

- 事後課題 1. リフレクションシート記載

学内実習終了 翌日

科目名	単位	時間数	講義時期	講師 (○=実務経験者)
看護展開技術	1	30	1年 後期	齊藤まどか (○)
<p>科目目的 : 対象の健康上の課題や生活上のニーズを明らかにし、課題解決に向けて看護を科学的・論理的に実践するために必要な看護過程の基礎的知識を学ぶ</p> <p>目標 : 1. 看護実践における看護過程展開の意義・目的を理解する 2. 看護過程の構成要素とそのプロセス(方法)を理解する 3. ヘンダーソン看護論の定義・概念を理解する 4. ヘンダーソン看護論に基づき対象の健康上の課題や生活上のニーズを明らかにし、課題を解決するために必要な思考過程を展開する</p>				
<p>教科書 : 系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術I 基礎看護学2 医学書院 看護の基本となるもの V.ヘンダーソン著 湯楨ます他訳 日本看護協会出版社 秋葉公子著 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践(第4版) ニューベルヒロカワ</p> <p>参考文献 : ヘンダーソンの看護観に基づく看護過程 焼山和憲 日総研 看護アセスメント力鍛え方&教え方 内田陽子 日総研 わかりやすい看護過程 黒田裕子 照林社 看護がみえる vol4 看護過程の展開 メディックメディア</p>				
<p>評価方法 : 筆記試験60点 課題学習40点</p> <p>評価認定 : 優(80点以上)、良(70~79点)、可(60~69点)、不可(60点未満)の4段階評価とする</p>				
<p>授業の進め方 : 1. 事前課題に取り組んでいることを前提とし授業を行います 2. 予習・復習には上記の教科書・参考書に限らず、関連図書・資料を活用しましょう 3. 看護学概論・共通援助技術・生活援助技術で学習した「ヘンダーソン」に関する学習内容をポートフォリオにして活用していきます 4. 看護実践の要となる看護の思考過程を、紙上事例を用いて解説しながら段階的に学んでいく授業になりますので、体調を整えて欠席しないようにしましょう 5. 協同学習・グループワークを通して不明な点については積極的・主体的に質問し、自身の課題解決に取り組んで下さい。</p>				

授業進度と内容

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1~4	看護過程の概念・構成要素・プロセス	看護過程の意義・目的を理解する 看護実践における看護過程の位置づけを理解する 看護過程と看護理論の関係性を理解する アセスメントの意義・目的を理解する 情報収集の方法を理解する	4	1.看護過程とは 1)看護過程の意義・目的 2)看護過程の基盤となる考え方 (1) 問題解決過程 (2) クリティカルシンキング (3) 看護理論の活用 (4) 倫理的配慮と価値判断 2.看護過程の6つの構成要素 1)アセスメント (1) アセスメントの定義・目的 (2) 情報収集の方法 ①アセスメントの枠組み ②情報源 ③情報収集の方法・手段	講義

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
		情報の分析方法を理解する		④情報収集の時期 ⑤情報の種類・分類 (3) 情報分析の方法 ①分析 ②推測 ③解釈 ④判断 ⑤選択 ⑥統合 3. 看護過程展開に必要な学習ノートの作成 a. 発達段階・発達課題 b. 疾患に関する解剖生理・病態生理 c. 変形性膝関節症・人工膝関節全置換術の看護 d. 回復期の看護	講義
		全体像（関連図）を把握する必要性と方法を理解する	2	2. 看護過程の6つの構成要素 2) 全体像の把握（関連図）	講義
		看護課題を明確にする必要性と方法を理解する 優先順位決定の方法を理解する 看護計画を立案する必要性と方法を理解する 実施・評価の視点とプロセスを理解する	2	3) 看護課題の明確化（看護診断） (1) 看護診断の定義・目的 (2) 看護診断ラベル（NANDA-I） (3) 看護課題の種類 ①看護が取り扱う課題 ②共同問題 ③顕在的課題と潜在的課題 ④ウェルネス型の看護課題 (4) 看護課題の表記方法 (5) 優先順位の決定方法 4) 看護計画立案 (1) 計画立案の定義・目的 (2) 目標の設定 ①目標の表記方法 ②RUMBAの法則 (3) 看護介入方法（具体策） ①O-P、T-P、E-P ②5W1H (4) クリティカルパス 5) 実施 (1) 実施の定義・目的 (2) 実施に必要な技術 (3) 実施のプロセス (4) 記録の方法 6) 評価 (1) 評価の定義・目的 (2) 評価のプロセス・視点・方法	講義

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
5～ 15	ヘンダー ソン看護 論に基づ く看護過 程の展開	ヘンダーソン看護論の主要概念を理解する	2	1. ヘンダーソン看護論の概念枠組み 1) 人間 2) 環境 3)健康 4)看護	講義 ワーク シート
		基本的看護の構成要素(14項目)について、その内容と意味を理解する	4	2. ヘンダーソンによる看護の目的 3. 基本的看護の構成要素 14項目 1) 基本的欲求の充足した状態 2) 基本的欲求の未充足状態 3) アセスメントの視点	
		基本的欲求に影響する常在条件とは何か理解する	4	4. ヘンダーソン看護論に基づく看護過程展開の実際 1) 事例紹介 経過別：人工膝関節全置換術の回復期 事例：変形性膝関節症(50歳代・女性)	講義 ワーク シート
		基本的欲求を変容させる病理的状态とは何か理解する	4	2) 看護過程展開に必要な事前課題学習 3) アセスメント (1) 情報収集と情報整理 ①常在条件 ②病理的状态 ③基本的看護の構成要素(14項目) ・主観的データ(S情報) ・客観的データ(O情報) ・アセスメントガイドの活用	
		基本的欲求の充足・未充足を判断する	4	(2) 情報の分析・解釈 ①充足・未充足の判断 ②未充足の原因・誘因の明確化 ・体力・意思力・意識の3側面に視点を置いたアセスメント	講義 ワーク シート
		3側面(体力・意思力・知識)とは何か理解する	4	4) 全体像(関連図) 関連図の作成	講義 グループ ワーク
基本的欲求の視点で一連の看護過程が展開されていることを理解する	2	5) 看護課題の明確化 6) 優先順位の決定	講義 ワーク シート		
回復期にある対象に必要な看護を看護過程の展開を通して考えることができる	4	7) 看護計画の立案 (1) 目標の設定 ・看護目標 ・期待される結果 (2) 具体策の立案 8) 実施と記録 (1)実施のプロセス (2)記録の方法	講義 ワーク シート 協同学習		

回数	単 元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
			2	9) 評価 (1)評価のプロセス・視点・方法	講義
単位修得認定試験			1	筆記試験・課題学習で評価する	

<事前・事後課題> その都度提示しますので期限までに個人学習を行う

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
3	臨床判断	臨床判断とは何かを理解する	2	1.臨床判断と看護過程の関連性 2.臨床判断モデル 1) 気づき・解釈・反応・省察 2) 気づきのトレーニング (DVD)	講義 グループ ワーク
4 5 6 7 8 9	フィジカルアセスメント技術	系統別フィジカルアセスメントの実際を理解する	12	1.呼吸器系のフィジカルアセスメント 2.循環器系のフィジカルアセスメント 3.腹部・消化器系のフィジカルアセスメント 4.筋・骨格系のフィジカルアセスメント 5.脳・神経系のフィジカルアセスメント 6.頭頸部・感覚器のフィジカルアセスメント 7.乳房・腋窩のフィジカルアセスメント	講義
10			2	1.事例で学ぶフィジカルアセスメント 1) 呼吸困難 (1) 内容・方法と根拠・留意点 ①視診 ②触診 ③聴診 ④打診	講義 グループ ワーク
11 12	バイタルサイン測定	バイタルサイン測定の方法とアセスメントの基礎知識を習得する	2	1. 小テスト 2. 事前課題学習内容の確認 1)バイタルサインを観察する意義 2)バイタルサインの変動因子と個体差 3)バイタルサインの基礎知識・観察方法・アセスメント (1) 体温 (2) 脈拍 (3) 呼吸 (4) 血圧 (5) 意識	講義

